

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第5部門第2区分
【発行日】平成17年6月30日(2005.6.30)

【公開番号】特開2003-214514(P2003-214514A)
【公開日】平成15年7月30日(2003.7.30)
【出願番号】特願2002-10661(P2002-10661)
【国際特許分類第7版】
F 1 6 H 15/38
【F I】
F 1 6 H 15/38

【手続補正書】
【提出日】平成16年10月15日(2004.10.15)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0035
【補正方法】変更
【補正の内容】

【0035】

上記3個のトラニオン7a、7b、7cは、前述の様に、前記各第二の枢軸44、44を中心とする前記各支持片25a、25aの揺動に基づく上記両ディスク2、4の円周方向に関する若干の変位と、それぞれの両端部に設けた枢軸6、6を中心とする揺動変位を自在に支持している。変速動作を行なわせるべく、上記各トラニオン7a、7b、7cを、それぞれの両端部に設けた上記各枢軸6、6の軸方向に変位させる為に本例の場合には、次の様なアクチュエータを設けている。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0038
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0038】

又、図示の例では、上記各リンク腕55a(55bの場合も同様。)の先端部の互いに対向する面に形成した円筒状凸部を、上記トラニオン7aの両端部に設けた枢軸6、6の中心部に形成した円孔内に緩く挿入すると共に、リングにより挿入部の油密を保持している。又、上記各枢軸6、6の端面と上記各リンク腕55a、55bの先端部側面との間には、スラストニードル軸受を設けている。このスラストニードル軸受を構成する1対の軌道輪のうち、上記各リンク腕55a、55b側の軌道輪の片面で、これら各リンク腕55a、55bの先端部側面と当接する面は、球状凸面若しくは円すい状凸面としている。この様な構造により、上記各リンク腕55a、55bとトラニオン7aとの間で変位の伝達を自在とすると共に、前記各第三の枢軸58、58を中心とする上記各リンク腕55a、55bの円滑な揺動変位、並びに、上記各枢軸6、6を中心とする上記トラニオン7aの円滑な揺動変位を自在としている。